



言葉に表われた幼児の情緒の一端

(第四回関東保育協議大会研究発表)

群馬大学学芸学部附属幼稚園

鈴木正子

言葉の記録の動機と方法

園外保育はどちらの幼稚園にも欠くべからざる保育内容の一つであることは言うまでもありません。田圃へ野原へ五月六月の季節は私達を園外へと誘います。

新入園児もやつと馴れてほつとした昨年の五月中旬のこと、私はしばらく新しく入つた子供等にかまけて心をかけてやれなかつた年長組の子供と一緒に裏の田圃へ出かけました。

丁度麦畑の中を通りますと青い麦のかおりが私達を追いかけて来るようです。麦が風にゆれています、「お手々つないで」と口をつけて出る歌声麦の観察等に足を止めたり歩きま

す中にある一人の幼児が足をとめて申します。
麦が、
せんせい

今日は、
今日は、
しているね、

「先生麦が今日は今日はしてるね」

ふだんあまり話もしないこの子供がこんなことを言った、私はその時、「ほんとうにね、みなさんが来て下さつたので麦さんよろこんでいるのでしよう」と申しましたが、内心ほんとうにうれしく今日の園外保育もこれだけで良かったと想つたくらいでした。

私はその日子供達を帰えしてから早速ノートに今日の子供の言葉を記してみました。

幼児期は未分化な時代と申しますが、麦に對する自分との同位感、麦も自分も一つに感じてはばからぬ自由な心、自然への親愛感等幼児の性格を心にいきままでに表わしている。み

じかいこの言葉に完全にみせられてしまつたのです。

私はその時想いました。どうだろう、幼児期の特徴を知るためにも、又一人一人の幼児の気持を再認識するためにも、幼児の言葉を自然の中に記録して行つたら面白かるうと思つたのであります。忙しい忙しい保育者の毎日です。ノートと鉛筆をもつてそれを書き取つてゐるひまも無い毎日です。そこで私は感じた日、気づいた日に、子供等が帰つてから想ひ出して記すことに致したわけです。

たゞあの時こういうことを言つたのだつたがと、後になると記憶がうすれて真実とのずれが生じたり、大人の気持が交錯したりする危けんを十分注意しながら記録致しました。

以上は私が幼児の言葉を記録し始めた動機と方法でありませんが、こうしてまとめて見ますと今更の如く幼児の性格、その中に表われた情緒性というものはつきりとらえることが出来るのであります。

言葉に表われた 幼児性 情緒 緒 V 説明

次に記録された言葉にどんな風にそれが表現されているか、二三の例を上げてみましょう。

先づ幼児の情緒面を申し上げる前に、幼児期の特徴である未分化性、アニミズム的なもの見方等について気のついた点を例をもつて説明致し度いと思ひます。

第一例と致しまして砂山を背景にして生れた言葉を考へて見度いと想ひます。時季は六月、前日の雨で湿度状況良ろし

くなつた砂場はその朝満員の盛況でありました。大シャベル、小さなシャベルの交わる中にたちまちにして大きな山が出来上つてしまいました。子供は赤城山だと言つてよろこびました。そして出来た出来たと言ひながら大きな山に足を掛けたのであります。

お山作ろう

赤城山だよ

できた できた

大きいね

登ろうよ

わあ

大きな足跡が

ついちやつたな

勿論砂山はくずれてしまいました。作つては登り作つては登り時を忘れて子供達は遊び続けたのであります。その砂場遊びの時の子供の綜合の聲がここに現われた言葉であります。この快適な言葉の中に現実と空想の世界の入りまじつた未分化な幼児らしい性格が見出されるわけです。幼児は砂山を實際の山として登ろうとしています。そして其処に何の不思議もないのであります。又始めに申し上げた麦の場合ですが、幼児は自分と同じものとして他を感じてゐるのであります。以上の言葉に表われて居ます様に、幼児は私達大人の解らない未分化な世界に住んでゐるものであること、その為には幼児のものゝ受取り方というのがしばしばアニミズム的で

あるということを私は言葉から再認識し得たわけです。

さてこう言う幼児性を前ていとして次の情緒面の説明に入りたいと思いますが、幼児の世界が未分化なものである点から言つても、これ等の言葉を分せきして考えることは不自然であることは言うまでもありません。そのまゝで幼児らしい味を味わうべきであることは今更申すまでもありません。私はたとへ言葉に表現された比較的はつきりした好ましいむしろ情緒に近いような情緒の芽生えについて、私の感じた二つの面を語らせていたゞき度いと想うのであります。

では雨の日を背景にした言葉を例にあげましょう。

てるてる坊主

大きい坊主

小さい坊主作つたから

明日天気になるよ

ジョンが雨にぬれて

びしょぬれで

かあいそうだな

これは私の子供の場合であります、雨の室内遊びにあきた日曜日のことです。私は紙をせがまれて子供にあたえましました。子供は大きい坊主、小さい坊主と節をつけながらてるてる坊主を二つ作りしました。やがて軒の物干ざおにそれをつるし、私をふり返つて安心した様に明日天気になるよと申します。その時二人して外の雨をながめていますと近所のジョンという犬が通りかゝりました。子供は雨によごれたそれをし

げしげとながめて居りましたが「ジョンが雨にぬれてびしょぬれでかあいそうだな」と申します。如何にも自分がぬれてもいる様な淋しい顔をして申します。私は「そうねえ、早くお家に帰るといいのにね」と犬にとも吾が子にともなく申しました。ふだんは独りでいばつている自分勝手な子供の性質に内心を傷ためていた私は、はからずも表われた吾が子のやさしい愛情のほとばしりといつたものを見つけて、よるこび早速記録致しました。

又他の子供の場合をもう一つ申し上げるならば卒業式も間近なある日

春になると

美代子

学校にゆくの

先生も一緒にゆこう

ほんとに

そうだといいなあ

ある日子子供が窓辺に立つている私の所に来てだまつて私の手につかまつたのです。そして「春になると、美代子、学校に行くの、先生も一緒に行こう」と申します。私は幼児から先に自分の気持を言われてはつとしながら「先生もみんなと一緒にほんといに行きたい」と申しました。すると「そうだといいなあ」と言いながら遊びの群の中に入つて行きました。私はやさしい子供の気持にあたまりながらこの言葉を記録したのであります。私はこの二つの言葉に幼児の愛情の小さ

い芽生えを見出すことが出来、心からうれしいと想いました。そしてもつともつと他の、私のうつかりして気づかないであろう幼児の沢山の芽生えについて、急に心配になりはじめたのであります。

次に方向を変え、ばつた取りを背景にした言葉について考えてみましょう。

夏休みもすんで第二保育期が始まりますと急に虫取りが盛んになります。

ばつただよ

ばつただよ

おれの眼の所

通つたよ

きーち きーち

鳴いて

あの日のこと裏の畠で虫取りの相談をしておる子供達とおりますと、子供の耳をかすめてばつたが足音におどろいてとんだのであります。その子供は、はつとして息をのんで私を見ました。「ばつただよ ばつただよ おれの眼の所通つたよ きーち きーち鳴いて」

子供は何とおどろいていたでしよう、私もびつくりした顔にうつられてだまつてしばらく立つて居りました。ここで幼児は何も知らないから、おどろくのだ等と申しすまい、私は幼児とは何と真剣なおどろき方をするのかしらと感心致しました。

同じくとんぼ取り、又蛙取りにしても幼児には一つ一つがよるこびであり愉快であり、幼児というものは生々しい感性にあふれているものであることを発見したのであります。

眼まわせ

眼まわせ

ぐるぐるぐる

あ、にげた

あつちの木

こんどは

そうつとゆこ

蛙が生れたよ

葉っぱのかけで

眼あけている

なけないんだよ

これを感じ性と名づけるならば幼児とは何と単純ではあるが、新鮮な感受性をもつているかと言うことを発見したのであります。そして若し大きくなつてもこの卒直なおどろき、喜びをもつて他を素直に感受出来る事が出来たなら、どんなにか人間の生活が豊かになるかと私は思い及ばせられたのであります。以上私はここで殊に愛情と感受性ととの二つの面について語らせていたゞきましたが、たしかにこの二つの面を考えるだけでも、幼児の情緒の世界が日毎に内に外へと複雑化し成長しつゝあると言うことが解かるのであります。それが幼く単純なものであるだけに、私達大人の指導如何によつては、情操と言われる様なより豊かなものに、より高いものになり得る可能性も又大きいのではないかと想います。

言葉からの情緒性の指導

さて幼児の言葉の記録により幼児期の特徴、情緒生活の一

端を再認識し得たわけでありませんが、それならばどうしたらその情緒性をゆがめずに伸して行つてやるかという問題が、最後に残るわけです。も少し大きくなつたなら表現された言葉をもう一度文字を通しあたえることも良いでしょう。又幼児においては、リズム、自由画等に誘導してみるのも面白いかと考えられます。しかし、それよりも先に達私がしなければならぬこと、それは幼児のその時々々の気持になつてやることではないでしょうか。なぜならば言葉を見て知つたのですが、幼児の情緒が如何に瞬間的なものであるかと言ふことであります。記したからこそ残つているのでありますが、この言葉を何時言つたかおぼえている子供があるでしょうか。それだけに私はその大切さを身にしみて感じるのではありません。後ではもう間に合わないのがあります。その時々

に幼児のうつたえる言葉に大人の心が鈍である時、折角のよい情緒の芽生えも、しぼんでしまふでしょう。反対に大人が先づそれに順応し、共感してやる事が出来たなら、その一言はどんなに幼児を力づけ自信づけることでしょうか。

幼児の小さい愛情が大きな愛情へ、幼児の単純な感受性が素直なものゝ見方の出来る豊かな人間性又美的情操に富んだ人間性へと成長して行くのであります。

私達大人は幼児に豊かな環境をあたえてやると同時に、是非幼児からの言葉に丁寧な耳をかたむけてやりたいものです。

人間の情緒の大半が幼児期に形づくられるとさえ言われています。先づ何よりも先に幼児の良い理解者となり度いものであります。

言葉に現われた幼児の情緒の一端

第四関東保育協議大会研究発表要項

群馬大学学芸学部附属幼稚園 鈴木正子

一、幼児の言葉の記録の動機と方法

一、言葉に表われた幼児性と情緒の一端

幼児性……未分化・アニミズム

例Ⅱ 砂山・舟遊びを背景にした言葉

情緒……愛情・感受性

例Ⅱ 雨の日・春が来ると・ばつた・とんぼ・かえるを

背景にした言葉

一、幼児の言葉からの好ましい情緒性の指導について

幼児の情緒は瞬間にして消え去るものであり、言葉も又はかなく無意識の中に発せられるものが多い、私達の細心の注意をもつてその時々々の幼児の言葉に、気持に順応し共感してやることが好ましい幼児の情緒を育てる上の根本問題である。

一、幼児の言葉の抜萃（年令満五—六歳年長クラス園児のもの）

せんせい
妻がこんにちわ
こんにちわ
してるね

生れた環境 園外保育
季節 五月中旬

お山作るう
赤城山だよ
できた できた
大きいね
登ろうよ
わあ大きな足跡が
ついちやつたな

生れた環境 砂遊び
季節 六月上旬

てるてる坊主
大きい坊主
小さい坊主作つたから
明日天気になるよ
シヨンが雨にぬれて
びしょぬれで
かあいそうだな

生れた環境 雨の日曜日
窓の外の風景、出来ごと
季節 四月中旬

春になると
美代子
学校に行くの

先生も一緒に行こう
ほんとに
そうだといいなあ

生れた環境 保育室の窓
辺・日向卒業もま近い日
季節 三月中旬

ばつただよ
ばつただよ
おれの眼のところ
通つたよ
きーち きーち
ないて

生れた環境 蟲・露の多
い朝・蟲取りの子供・四
人位
季節 九月

眼まわせ
眼まわせ
ぐるぐるぐる
あ、逃げた
あつちの木
今度はそつとゆこ

生れた環境 幼稚園の裏
庭・とんぼとり
季節 九月
僕の舟がいちよ
やあ休んでる

早く行けよ
行つてくれよ
あ、流れたよ
僕のとどつちが早い
用意 ドン!

生れた環境 舟遊び
舟は木の葉、棒ぎれ板き
れ等・川に沿つて登園す
る道
季節 四月下旬

いらつしやいませ
さあどうぞ
何も無いですけれど
これおさしみです
これおすしです
いただきます
おいしいですよ

生れた環境 ままごと遊
つばき・藤の花等・ごち
そうの材料になる
季節 五月上旬

僕 運転手になるの
先生のせてあげようね
チンゴウ
チンゴウ

楽でしよう

生れた環境
保育室・話し合いの時・何
になりたいの発表
季節 二月下旬

煙の兵隊あつちゆけ
煙の兵隊あつちゆけ
どんどん上る
天まで上がる
真赤だね
あつたかいね

生れた環境 たき火
煙の兵隊は童話からの速
想・丸くなつて火をかこ
んでいる子供
季節 十二月下旬

風のある日は
だれか
後から
押して来るようだ

生れた環境 風の日
登園の道
季節 五月上旬

蛙が生れたよ
葉っぱのかげで

眼あけている
鳴けないんだよ

生れた環境
庭の垣根に、小さい青が
えるが止つていた
季節 六月中旬

きれいよ
きれいよ
お花のよう
どうしてじきに
消えてしまうのでしょ

生れた環境
花火大会の翌日・保育室
季節 十月中旬

十五夜つて
お月様だよ
何だと思つたら
お月様さ
僕わかつちやたよ

生れた環境
十五夜の次の日、おすべ
りの上の言葉
季節 十月上旬